

# 共生・協働のむらづくり通信

## 第6号

～共生・協働の農村づくり運動～



農村集落の再生



新たなむらづくりの形成



むらづくりの維持・発展



みんなでいいむらをつくらうよ!



鹿児島県農政部農村振興課

鹿児島県共生・協働の農村づくり運動推進協議会

げんな  
**西之表市現和校区が**  
**「農林水産大臣賞」&「日本農林漁業振興会会長賞」を受賞！**



西之表市現和校区の「出せ知恵を！掘り興せ現和の宝を！！」を合い言葉とした、豊かで活力あるむらづくり活動が評価され、平成24年度豊かなむらづくり全国表彰（九州ブロック）において、「農林水産大臣賞」を受賞しました。

さらに、全国の農林水産大臣賞受賞地区の中から、第51回農林水産祭のむらづくり部門において天皇杯、内閣総理大臣賞に次ぐ「日本農林漁業振興会会長賞」を受賞しました。



豊かなむらづくり全国表彰(九州ブロック)  
 農林水産大臣賞 表彰式



第51回 農林水産祭式典(於 明治神宮)  
 各部門の日本農林漁業振興会会長賞受賞者

**【地区概要】**



a.品揃え豊富な「現和物産館」



b.ふるさとの食を伝える  
 「たいまきオバン」



c.農業産出額UPに貢献している  
 サトウキビ収穫作業の受託

現和校区位置図



a. 市内で地域づくりに取り組むNPO 法人「ジュントス」と設立した「現和風本協議会」が、西之表市街地に開設した「現和物産館」は好評を博し、校区民の生きがいつくり等につながっています。

b. 地元農産物を使った加工食品の研究・開発及び生産・指導を行っている生活改善グループ「たいまきオバン」はふるさとに伝わる食文化の継承に取り組んでいます。

c. 種子島の基幹作物であるサトウキビの振興のため、「さとうきびハーベスター生産組合」による収穫作業の受託を行っており、作付面積・産出額ともに増加しています。



## 平成23年度「県知事賞」受賞地区の紹介

県では、「共生・協働の農村づくり運動」の全県的な取組を推進するため、地域の自主的な話し合いを基本に、実践活動を行っている地区を表彰し、広く県民に紹介しています。

平成23年度は、高山地区公民館（日置市）、黒木地区コミュニティ協議会（薩摩川内市）、大始良地区共生・協働むらづくり委員会（鹿屋市）、阿権むらづくり委員会（伊仙町）が県知事賞を受賞しました。

なお、各地区の活動内容の詳細については、県ホームページで紹介しています。

※県ホームページ：ホーム＞産業・労働＞食・農業＞農村振興＞むらづくり＞共生・協働のむらづくり表彰＞共生・協働の農村（むら）づくり運動表彰

たかやま

### 高山地区公民館（日置市）

〈特徴的な取組〉

廃校となった小学校を、ピザ窯や宿泊施設、多目的広場など様々な機能を備えた公民館に改修し、地区内外の人々との交流の場として活用しています。

また、毎年多くの都市住民で賑わう、住民総出の「高山ふるさと秋祭り」やワラビ・ツワ採り、タケノコ掘りを体験するイベント「尾木場めだかの里散策&山菜狩り」などに取り組んでいます。

世帯数	132戸
農家戸数	37戸
農地面積	14ha 〔 田9ha 〕 〔 畑5ha 〕
主な農産物	水稲，イチゴ 飼料作物，生産牛



小学校跡地(現公民館)に設置したピザ窯



都市住民で賑わう高山ふるさと秋祭り



尾木場めだかの里散策&山菜狩り

くろき

### 黒木地区コミュニティ協議会（薩摩川内市）

〈特徴的な取組〉

未利用となっていた米穀用石蔵を「石ぐら直売所」として整備し、住民の集いの場や直売所として活用しています。

また、鳥獣の餌場となりやすい放置果樹の伐採など地区が一体となった鳥獣被害防止対策や耕作放棄地の発生防止対策を図っているほか、子供たちの史跡めぐりから発展し、今では空き缶拾いなどの環境美化も併せて行う「ふるさと歩こう会」の開催などに取り組んでいます。

世帯数	348戸
農家戸数	162戸
農地面積	241ha 〔 田166ha 〕 〔 畑 75ha 〕
主な農産物	水稲，飼料作物



石ぐらを活用した農産物直売所



箱わなの設置(イノシシ, シカ)



ふるさと歩こう会

## 平成23年度「県知事賞」受賞地区の紹介



おおあいら

## 大始良地区共生・協働むらづくり委員会（鹿屋市）

〈特徴的な取組〉

6町内会で設立されたむらづくり委員会では、地元の異業種団体である「大始良経済文化同友クラブ」と協働で、遊休農地を活用した子どもと高齢者の農業体験によるふれあい活動を通じた世代間交流や石蔵倉庫跡地での青空市を開催しています。

また、女性加工グループによる新ごぼうの加工品づくりのほか、幼稚園で郷土料理による食育活動に取り組んでいます。

世帯数	2,187戸
農家戸数	307戸
農地面積	819ha 〔田 92ha〕 〔畑727ha〕
主な農産物	肉用牛, 養豚 甘藷, 水稻

子どもたちと高齢者との  
世代間交流

幼稚園児の農業体験学習



石蔵倉庫跡地での青空市の開催

あごん

## 阿権むらづくり委員会（伊仙町）

〈特徴的な取組〉

阿権小学校の校章「青鳩」に込められた「博愛と郷土を愛する心を育む」精神の下、小学校と一体となった田植え体験など、子どもたちを地域で育てるむらづくり活動を進めています。その一環として、小学校と一体となった田植え等の体験を通して、稲作文化の伝承を行っています。

また、農村女性を中心に新規作物（長命草など）の導入や加工品開発等に取り組んでいます。

世帯数	168戸
農家戸数	81戸
農地面積	170ha 〔田 13ha〕 〔畑157ha〕
主な農産物	サトウキビ カボチャ パレイシヨ



新規作物(長命草)の植え付け

稲作文化の伝承  
(水土里サークル活動)集落案内看板に発掘した  
地域資源を紹介

## 平成24年度 共生・協働のむらづくり活性化事業の取組紹介

県では、農村地域の過疎・高齢化が進む中、大学やNPOなど地域外の多様な主体と協働して取り組む、地域の豊かな自然や伝統芸能、食材などの地域資源を活かしたむらづくり活動を支援しています。

### 農村集落の課題

- 1 むらづくり活動のリーダー不足
- 2 農地・農業用施設の適切な保安全管理
- 3 農業の担い手不足
- 4 地域伝統文化の次世代への継承 など

### 地域資源



### 地域外の活力



活力  
ノウハウ  
マンパワー



何とか  
したい!

**(協定)**

協力  
しましょう!

農村集落

協働活動  
[人と資源のフル活用]

大学や  
NPOなど

(例)

かれいがわ

### 佳例川地区自治公民館(霧島市)と鹿児島大学との協働活動

佳例川地区では、鹿児島大学農学部と協働で、農産物や景観など地域資源を活かした、地域の活性化に向けたむらづくりに取り組んでいます。

これまでに、過疎・高齢化、担い手不足に悩む農家への聞き取り調査や、地域資源の活用に向けた現地調査を行いました。今後は、これらの地域資源の活用策や、農産物の販売方法などについて、学生達の提案を取り入れながら地域の活性化に取り組むこととしています。

また、農作業や、地区のイベントにも参加を呼びかけるなど学生との交流を深めています。



学生達による農家への聞きとり調査

こうどん

### 神殿校区(南九州市)とNPO法人エコ・リンク・アソシエーションとの協働活動



地域住民とNPOによる「あるもの探し」

神殿校区では、NPO法人エコ・リンク・アソシエーションと協働で、親水公園を活用した景観保全や、史跡・農産物を活かした地域の活性化に向けたむらづくりに取り組んでいます。

昨年11月には、校区内の幼稚園児から高齢者まで約50人が参加して、地域にある史跡や普段気づかないものを見つけ、それを基に校区内のマップを作る「あるもの探し」を行いました。参加者は、地域の歴史に詳しい方やNPOの方々の説明を受けながら、身近にある地域資源への理解を深めました。

また、お昼には地元のお米や野菜を使った炊き出しが行われるなど、世代間の交流も図られました。

## 共生・協働のむらづくり活動情報（1）

### 住民による「営農ビジョン」の作成

情報提供：有川 恵 県むらづくり通信員

屋久島町湯泊集落では、ポンカン、タンカンを中心とした農業が営まれています。

高齢化で、年々手入れ不足の果樹園が増えてきていることなどから、平成23年6月に地域リーダー15名で「湯泊集落いけんかすっ会」を結成し、平成24年3月には、集落の10年後を見据え、高齢者の技術の活用や農業生産活動の維持・発展などに関する「地域営農活性化ビジョン」をまとめました。

ビジョン作りの話し合いを重ねる中で、同年10月には果樹農家12戸で「湯泊地区機械利用組合」を設立するとともに、年明けには高所作業機を導入し、果樹園の管理作業を行う態勢を整えました。

今後、「いけんかすっ会」では、集落内の営農に関する悩み相談を受けられる組織づくりや、年を重ねても安心して地域ぐるみで農業ができる仕組みづくりなどに取り組み、ビジョンの実現を目指すこととしています。



### 「ふるさと発見塾」での特産品開発

情報提供：城ヶ崎 正吾 県むらづくり通信員

日置市吹上町坊野地区公民館では、平成21年から「ふるさと発見塾」を開講し、「坊野の特産品づくり」に取り組んでいます。

地区には、タケノコ・ツブブキ・タラの芽など約30種の食材があります。

これらの食材や素朴な味を大切にするため、地区内の高齢者らの知恵と技を生かし、伝統料理の講習や新たな農産加工品づくりを行っています。

中でも、「べっぴん味噌」や「ごま入りこんにゃく」は評判です。

一方、地区内の有志20人が結成した「むら興し推進委員会」は大豆やゴマ、コンニャクなどを栽培し、ふるさと発見塾に提供しています。

これからも、塾とむら興し推進委員会は車の両輪として、年をとっても無理なく食材を育て、特産品を作り、販売することで喜びを感じるむらづくりに取り組むこととしています。



### 物産館を拠点とした地域交流

情報提供：NPO法人エコ・リンク・アソシエーション  
上園 昇 県むらづくり通信員

平成24年4月28日、南さつま市金峰町大坂（だいざか）地区に「大坂ふれあい館」がオープンしました。大坂地区内の長谷集落から「自分たちの作った野菜などを販売したい」との声が上がり、地区住民とNPO法人「プロジェクト南からの潮流」が協働、話し合いを重ね、ボランティアや募金などの協力を得て建設された地域手づくりの物産館です。

館内には、大坂の農産物や手作りこんにゃく、苔玉（観葉植物）をはじめ、新米（金峰コシヒカリ）など南さつま市の商品が並んでいます。約1ヶ月後の5月20日には来客一万人を突破しました。買い物だけではなく、地域の憩いの場としての利用も目立ちます。

また、収益の一部は集落の共同作業などに還元されます。

物産館が生活支援サービスや長寿生きがいづくりなど、地域の交流・活性化のための新たな拠点施設となっています。



## 共生・協働のむらづくり活動情報 (2)

### 牛の放牧により農地を復元

情報提供: 上大川 秋広 県むらづくり通信員

南大隅町佐多の大泊地区では、農家の高齢化が進み、耕作放棄地も増え、年を追うごとにイノシシやサルなどの鳥獣による農作物被害が深刻な状況になってきています。

この状況を打開すべく、大泊地区では、山際の耕作放棄地を解消するため、平成23年から畜産農家と連携して牛を放牧。緩衝帯を設置することで、イノシシやサルの侵入を抑える試みを始めました。

4頭の牛の放牧で、これまでに1.4haの農地が復元され、冬作にジャガイモを植え付けました。

ジャガイモの収穫の手伝いに来ていた集落のお年寄りたちから「自分たちも何か作ろう!」という声上がり、地区では、平成24年の春作からショウガやゴマの栽培も始めました。

鳥獣害対策として取り組んだ耕作放棄地解消の取り組みがお年寄りや地区の活力に発展しつつあります。



### 伝統芸能契機に活性化

情報提供: 岩下 純一 県むらづくり通信員

さつま町中津川区では祁答院島津家初代・島津金吾歳久を祭る大石神社に「金吾様(きんごさま)踊り」を奉納する秋季大祭が行われています。地区では、祭りを盛り上げようと平成16年ごろから新聞、テレビなどを通して広くPR、地区内外から訪れる多くの観客でにぎわうようになりまし。これが契機となり地域の活性化に取り組みないかと話し合いを重ね、平成23年4月から公民館での「なかつこ日曜朝市」が始まりました。同年8月には、地区所有林の間伐材などで手作りの朝市施設を建設。朝市では、地区の産業経済部が中心となり、旬の野菜やしそジュースなどの加工品が並び、多くの利用者に喜ばれています。

その後、地区民の要請に応じて、平成24年4月からは、日曜朝市だけでなく、無人販売所としても開放しています。

伝統芸能を継承しながら、「みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」を目指しています。



### 「そばの里」で地域連携

情報提供: 城ヶ崎 正吾 県むらづくり通信員

日置市田尻集落は、吹上地域のほぼ中心に位置し、田園風景の広がる農村地域です。高齢化が進む中、近隣集落とも連携して「そばの里」づくりに取り組んでいます。

平成14年から集落の話し合いにより水田で始めたそば栽培は現在、春ソバ12ha、秋ソバ53haまで拡大してきました。

収穫したソバは、JAを通じて県内外の製粉会社に出荷。その一方で吹上地域の加工グループがソバ入りクッキー「ソマモンド」を開発し、物産館で販売されるなど、地元の特産品づくりにも活用されています。

平成24年12月中旬には、田尻集落を含む、吹上そば振興協議会の主催で新そば祭りが開催され、そば打ち体験等も行われました。また、田尻集落のそば生産部会では集落の方々を集めての新そば試食会も開催しています。

大晦日は、地元産の年越しそばで、新年を迎えています。



# 人とふれあう。自然を楽しむ。感動の農村体験！

～かごしまのグリーン・ツーリズム～



本県の豊かな食や自然などの魅力を生かして、農家民泊や農作業等を体験する教育旅行の受入れを中心に、農産物直売所や体験農園等を活用した交流などのグリーン・ツーリズムの取組が県内各地で展開されています。



## 「かごしまのグリーン・ツーリズムを語る会」が開催されました。

平成24年12月21日に、グリーン・ファーム（鹿児島市観光農業公園）において、今後の本県グリーン・ツーリズムについて意見交換を行う「かごしまのグリーン・ツーリズムを語る会」が開催されました。会には、九州ツーリズム大学卒業生をはじめ、県内の実践者や観光関係者等が集まり、体験型教育旅行受入れや農家民宿の今後のあり方、本県グリーン・ツーリズム発展のための具体策等について忌憚の無い意見が交わされました。



## 「かごしまグリーン・ツーリズムフォーラム2012」が開催されました。

平成25年1月24日に、湧水町で、県内実践者の資質向上を目的としたフォーラムが開催されました。県内各地から240名が参加し、本県グリーン・ツーリズムのこの1年の動き等についての報告が行われるとともに、リスクマネジメントや観光との連携等の各分科会に分かれての研修会が実施されました。今回のフォーラムを契機に、本県のグリーン・ツーリズムの輪がさらに広がり、農業・農村がますます発展することが期待されます。



## むらづくり応援隊をご活用ください！

県では、県内のむらづくり実践集落のリーダーやNPO等、共生・協働の農村づくり運動への積極的な理解と協力の得られる方を「むらづくり応援隊」として登録し、農村集落へ紹介しています。応援隊自身の経験や知識等に基づく、むらづくりのノウハウの提供等により、むらづくりの課題解決や話し合い活動を支援しています。

## むらづくりに関する情報提供・相談窓口

県では、農村集落が主体となって取り組む活動等の情報を本誌や新聞、ホームページ等で紹介しています。あなたの地域のむらづくり活動情報の提供など共生・協働のむらづくりに関することは、最寄りの市町村役場または各地域振興局・支庁農政普及課へお問い合わせください。

共生・協働のむらづくり通信 第6号（平成25年3月発行）

編集・発行：鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1

TEL：099-286-2111（内線3108,3109）

鹿児島県ホームページ（むらづくり、グリーン・ツーリズム）

<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/index.html>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。